

2022年7月8日

三島市長 豊岡 武士 様

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島理事長 小松幸子

源兵衛川におけるホタル保護など生態系に配慮した維持管理の実施に関する「申入書」

源兵衛川は、過去 30 年間にわたり、市民と行政との協働により、生き物たちとの共生を目的とした、水辺自然環境の再生に長く取り組んできた「水の都・三島」の貴重な「水辺の宝物」「環境資源」です。

かつては、環境悪化が進行し、ゴミ捨て場化していた源兵衛川を、市民・NPO・行政・企業とのパートナーシップの力により、見事に清流に再生させ、ホタルが乱舞し、子どもたちの水遊びの歓声が響く、安全で楽しい清流に復活させました。今では、市内から一時姿を消した水中花「ミシマバイカモ」や絶滅危惧種の「ホトケドジョウ」などが復活し、街歩きの観光スポットとしても、国内外に誇れる素敵な水辺空間が形成されました。

しかし、今回、三島市水と緑の課による、不適切な源兵衛川・水の苑緑地周辺の草刈り作業によって、多くのホタルが集団産卵する、川の縁にあるコケの乾燥を防ぐ、大切な植物類のほとんどが刈り取られ、捨てられてしまいました。本年度は、過去最高のホタルの飛翔数(3,321 匹)を数え、来年度以降でのさらなる飛翔数の増加を期待している、最中での三島市による相談無き、乱暴な対応に驚愕し、多くのホタルの命を奪った可能性が想定される、今回の行政行為に激しい憤りを感じています。

また、公共事業を扱う行政機関として、地域・NPO に対する配慮不足や生態学的な専門的知識不足、市役所内での関係各課との調整不足、発注業者の指導力不足、担当課内の情報共有不足、源兵衛川の歴史性・環境特性の勉強不足、今までの約束事の認識不足など、市民との協働やせせらぎのまちをスローガンとしている三島市政の緩みと問題意識の欠如、市民目線や現場主義の不徹底が具現化したものです。

グラウンドワーク三島は、これら多くの不備に強く「抗議」するとともに、今後の対応について、下記のとおり「申入」を行います。多くのホタルの命を奪った今回の行政行為を踏まえ、今後、同様の環境被害が発生しないように、三島市による、誠意ある真摯な対応を望むものです。

記

1. 源兵衛川における草刈りなどの整備作業を実施する際には、必ず、本会に連絡するとともに、施工業者を含めた、現場での確認を行い、双方が納得・合意した対応を図ること。
2. 毎年、豊岡武士三島市長と中郷用水土地改良区理事長宛てに提出している「三島の川をきれいにする奉仕活動における源兵衛川の清掃活動の中止のお願い」の内容を理解していただき、その合意事項に沿った、適切・確実な対応を図ること。
3. 本会による、源兵衛川に関わる勉強会や環境再生ワンディチャレンジなどに、三島市役所関係職員が、なるべく参加していただき、各分野の環境専門家からの生態学や生物多様性を前提とした環境に配慮した水辺の維持管理方法を学ぶ機会を設けること。
4. 源兵衛川沿いに設置されている街路灯、特に、水の苑緑地周辺でホタルが飛翔している範囲にある街路灯は、ホタルの生育環境に配慮した街路灯(LED 照明)への改修を本会と協働して対応すること。
5. 境川・清住緑地や桜川、御殿川なども、環境に配慮した対応を本会と連携して実施すること。

以上、本会として源兵衛川など環境に配慮した対応への申入書を提出するとともに回答をお願いします。